

幼児の食生活に関する調査報告書

~家庭内での食事マナー・食生活リズム・食文化・調理実態について~

2006年/平成18年9月

カゴメ株式会社

東京本社 コーポレート・ブランド戦略室 コーポレート・ブランド部

〒103-8461 東京都中央区日本橋浜町3-21-1日本橋浜町Fタワー Tel:03-5623-8503

1. 調查概要

■調査目的 子供の食生活に関して、その実態や保護者の考え方・意識を明らかにし、

子供の食生活上の問題点を探ることを目的とする。

■調査対象 全国の幼児・児童を持つ保護者

■調査方法 インターネットを使ったアンケート回答方式

(カゴメ劇場ホームページ内 http://www.kagomegekijo.com/)

■調査実施時期 2006年4月24日~5月31日

■調査項目 1)回答者および対象の子供の属性

2)食事マナーについて

3)食生活リズムについて

4)食文化について

5)調理について

6)食生活上困っていること

7)「カゴメの食育支援活動」に関する意見

2)~5)については、子どもの食生活に関する33項目について、

※「食事マナー」「食生活リズム」「食文化」「調理」の4つの分野に分け、

「1. 家庭で現在やっている」「2. 家庭では現在やっていないが今後やらせたい」「3. 今後も家庭ではやらないが学校や園でやってほしい」

「4. いずれも当てはまらない」の中から最もあてはまる回答を選択

6)~7)については、フリーアンサーとした

■有効回答者数 4,790件

都道府県別回収状況(有効回答総数に対する構成比)は下記の通り。

No.	都道府県	件数	%
1	愛知県	560	11.7%
2	大阪府	426	8.9%
3	東京都	412	8.6%
4	神奈川県	333	7.0%
5	兵庫県	306	6.4%
6	埼玉県	278	5.8%
7	北海道	252	5.3%
8	静岡県	220	4.6%
9	広島県	183	3.8%
10	岡山県	167	3.5%
11	宮城県	131	2.7%
12	愛媛県	129	2.7%
13	石川県	121	2.5%
14	千葉県	115	2.4%
15	群馬県	107	2.2%
16	栃木県	99	2.1%

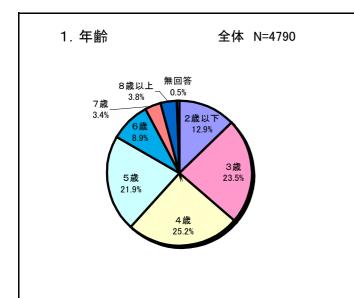
No.	都道府県	件数	%
17	京都府	94	2.0%
18	福岡県	94	2.0%
19	和歌山県	88	1.8%
20	鹿児島県	76	1.6%
21	滋賀県	58	1.2%
22	三重県	50	1.0%
23	奈良県	47	1.0%
24	岐阜県	46	1.0%
25	茨城県	42	0.9%
26	香川県	35	0.7%
27	長野県	34	0.7%
28	山口県	28	0.6%
29	富山県	26	0.5%
30	福島県	26	0.5%
31	新潟県	21	0.4%
32	沖縄県	19	0.4%

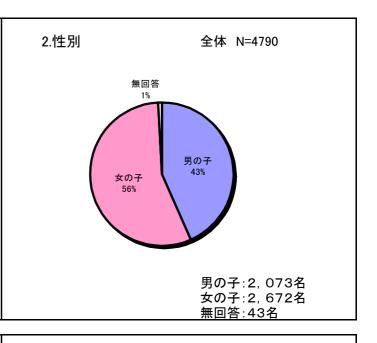
No.	都道府県	件数	%			
33	長崎県	18	0.4%			
34	福井県	16	0.3%			
35	徳島県	16	0.3%			
36	熊本県	15	0.3%			
37	山形県	15	0.3%			
38	山梨県	14	0.3%			
39	岩手県	12	0.3%			
40	青森県	11	0.2%			
41	大分県	11	0.2%			
42	佐賀県	8	0.2%			
43	秋田県	8	0.2%			
44	高知県	7	0.1%			
45	宮崎県	7	0.1%			
46	鳥取県	6	0.1%			
47	島根県	3	0.1%			
	合計	4,790	100.0%			

■企画・分析 カゴメ株式会社 コーポレート・ブランド戦略室 コーポレート・ブランド部

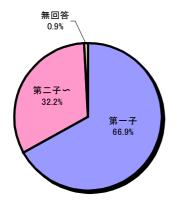
2. 対象となる子供の属性

- ◆ 対象となる子供の年齢は、カゴメ劇場メインターゲットである幼児(3~6歳児)が全体の79.5%を占めている。
- ◆ 昨年のカゴメ劇場観劇経験者は、全体の14.4%の681名。昨年招待者56, 291名の1.2%に相当する。



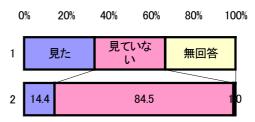


3.第何子か



第一子:3, 204名 第二子~:1, 542名

4.「カゴメ劇場2005」観劇の有無

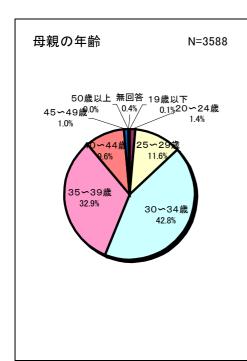


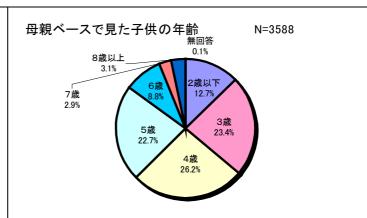
男子小計	(2073)	14.1	84.9	1.0
2歳以下		6.4	93.3	0.3
3歳		10.9	88.5	0.6
4歳		15.1	83.8	1.1
5歳		19.7	79.2	1.1
6歳		21.4	76.9	1.7
7歳		16.9	81.4	1.7
8歳以上		7.8	90.6	1.6
女子小計	(2672)	14.6	84.8	0.6
2歳以下		4.3	95.1	0.7
3歳		11.2	88.0	0.8
4歳		15.7	84.0	0.3
5歳		18.7	80.8	0.5
6歳		22.9	76.3	0.8
7歳		21.4	78.6	0.0
8歳以上		9.6	89.6	0.9

3. 母親の属性

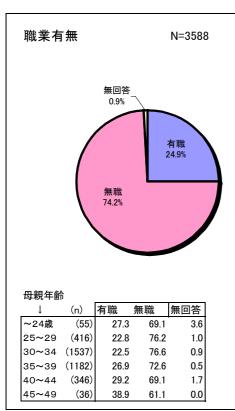
回答者の74.9%を占める「母親」のみに絞ってその属性を見ると下記の通りである。

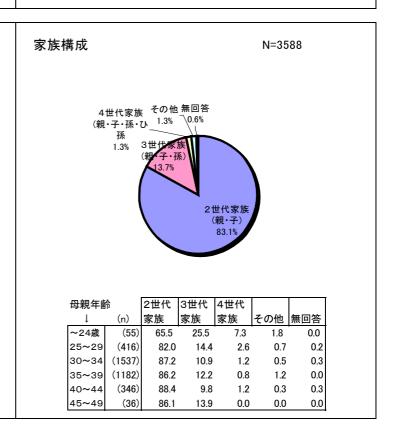
- ◆ 母親の年齢は大半が30代で、特に30代前半だけで43%、30代後半も含めると76%であった。
- ◆ 母親ベースでも子供の年齢は3歳~5歳が最も多い。特に30代の母親にこの傾向は顕著である。
- ◆ これらの結果から、今回の調査では「3歳~5歳」の子供を持つ「30代」「母親」からの回答が ボリュームゾーンを形成しており、全対象者に割り戻すと、全体の42.5%を占める。





母親年齢		子供の年齢						
↓ (n)		2歳以下	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳以上
~24歳	(55)	54.5	30.9	5.5	1.8	0.0	1.8	5.5
25~29	(416)	27.9	32.9	22.6	13.5	1.7	0.5	1.0
30~34	(1537)	13.7	26.2	26.9	23.0	7.5	1.6	1.0
35~39	(1182)	7.2	19.0	28.8	25.4	11.8	4.7	2.9
40~44	(346)	3.5	14.5	23.4	26.9	15.0	5.5	11.0
45~49	(36)	5.6	8.3	11.1	19.4	5.6	0.0	50.0





4. 調査結果 ~ 回答別・分野別ランキング~

分野別一覧は次頁に示す。

「現在実施している」「今後やらせたい」「学校や園でやって欲しい」の回答別ランキングは以下のとおりとなった。 男女別に見ると、調理分野でやや女子が高ポイントとなったが、その他に大きな差異は見られなかった。

◆ 全項目を通して「現在実施している」の回答が7割を超える上位項目は以下のとおり

1	11)必ず朝食を食べる	92.1	(%)
2 2	2)「いただきます」「ごちそうさま」を必ず言う	89.4	
3 2	23)食べ物を粗末にしない、食べ物で遊ばない	86.8	
4 9	9)一人で食事をさせない	81.0	
⑤ :	5)食事の時はジュースを飲まない	78.8	
6	14)早寝早起きをする	73.8	

- ・今回の調査では92%が朝食を食べていると回答しており、全項目内で唯一9割を超えている。
- ・H16.2月に厚生労働省が発表した食育レポートでは、幼児の朝食摂食率が80%後半となっており、これと比較すると、今回の調査対象者は、食への意識が高い層と思われる。

◆「今後やらせたい」の回答が6割を超える上位項目は以下のとおり

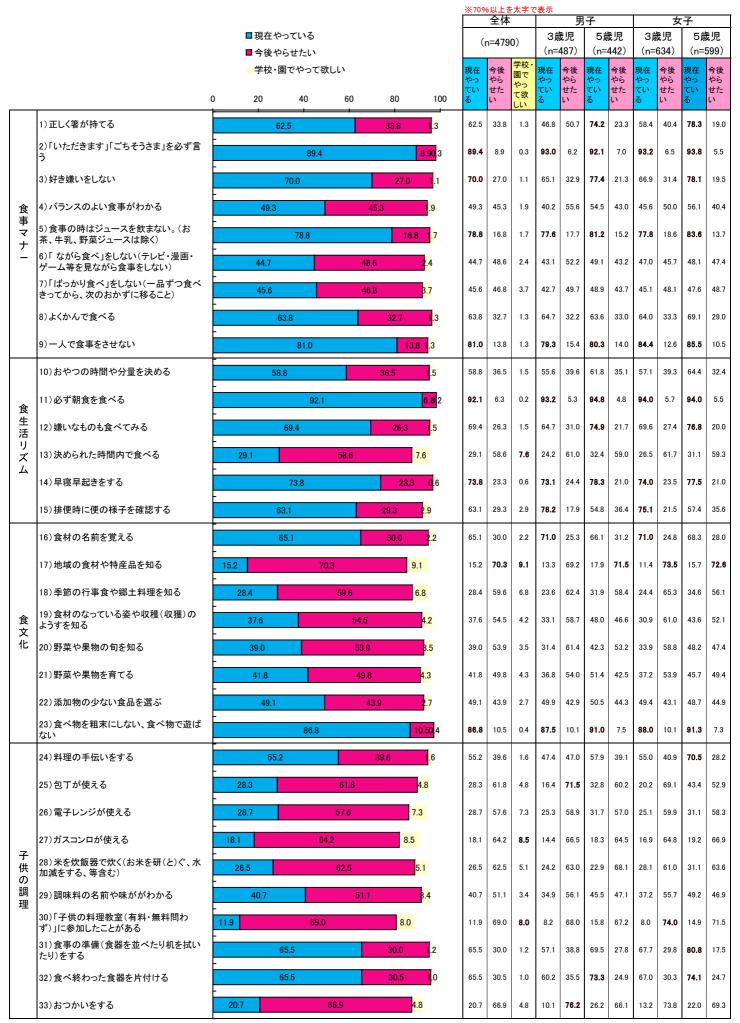
(① 17)地域の食材の特産品を知る	70.3	(%)
	② 30)「子供の料理教室(有料・無料問わず)」に参加したことがある	69.0	
	③ 33)おつかいをする	66.9	
(4) 27)ガスコンロが使える	64.2	
(う 28)米を炊飯器で炊く(お米を研(と)ぐ、水加減をする、等含む)	62.5	
(③ 25)包丁が使える	61.8	

・食文化や調理分野においては、現在は実施していないが多くの保護者が必要性を感じており、 今後実施したいと回答している。

◆「学校や園でやって欲しい」との回答が7%を超える上位項目は以下のとおり

(〕17)地域の食材や特産品を知る	9.1	(%)
2	② 27)ガスコンロが使える	8.5	
	③ 30)「子供の料理教室(有料・無料問わず)」に参加したことがある	8.0	
(2	〕13)決められた時間内で食べる	7.6	

・食事マナーや食生活リズム分野は比較的数値が低く、家庭内で実施する、したいという傾向が強い。 一方、食文化や調理分野では数値がやや高く、学校や園への期待・依存が伺える。



5. 調査結果 ~母親の職業有無、カゴメ劇場観劇有無~

母親の職業の有無および、カゴメ劇場観劇有無の属性別に、【現在実施している】と回答した割合を示した。

【母親の職業の有無】

- ・「調理」分野では、全項目において有職側が優位となり、5ポイント以上の差異も4項目で見られた。 有職側では、母親が多忙であることもあり、積極的に子供を調理に参加させる傾向が見られた。
- 「食生活リズム」分野では、無職側がやや優位ではあるが、大きな差は見られない。「決められた時間内で食べる」についてのみ、有職側が優位となり、母親の多忙による影響が伺える。

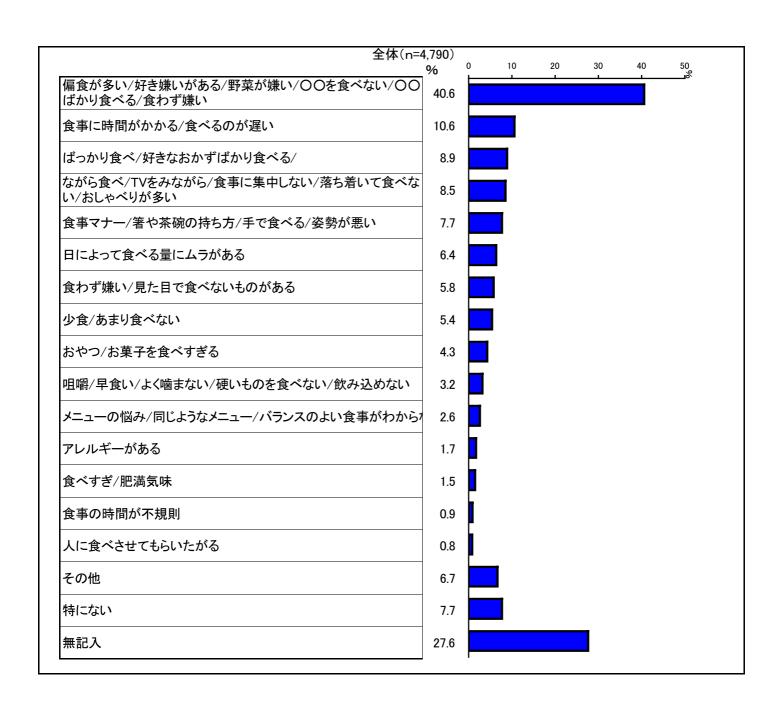
【カゴメ劇場観劇の有無】

- ・ 僅差の1項目を除き32項目において、観劇経験有側が優位となった。 カゴメ劇場観劇経験者は、食への意識が特に高い層であり、子どもの食生活を見直すきっかけとなったと思われる。
- ・昨年のカゴメ劇場のテーマとなった「排便」に関連して、子供向けメッセージである「便の様子を確認する」では、 特に目立った差は見られなかったが、保護者向けメッセージとした①料理に挑戦する②野菜を育てる ③生活リズム(早寝早起き)に関する項目で5ポイント以上の差で優位となっている。
 - 家庭内で食育を実践するためには、保護者への理解促進や実践ポイント等の情報提供が重要と思われる。
- ・子どもの調理項目では、10項目中6項目で観劇有が5ポイント差以上で優位となり、圧倒的な意識の差が見られた。 母親の職業の有無と比較してもその差は大きく、積極的に子どもに調理に参加させていると思われる。 また、観劇後、食へ興味を持った子どもが、家庭内で実践しやすい項目が調理であると考えられる。

【現在実施している】と回答した割合を示す ※優位を太字、5ポイント以上の差異があるものは網掛けで表示			母親の職業有 無		カゴメ劇場2005 観劇有無	
	全体(n=4790))	有 (n=895)	無 (n=2661)	有 (n=692)	無 (n=4048)	
	1) 正しく箸が持てる	65.3	60.1	68.1	61.7	
	2)「いただきます」「ごちそうさま」を必ず言う	89.1	90.9	91.0	89.5	
食	3) 好き嫌いをしない	72.1	70.7	73.0	69.7	
事	4) バランスのよい食事がわかる	52.0	49.5	54.8	48.5	
マ	5)食事の時はジュースを飲まない。(お茶、牛乳、野菜ジュースは除く)	79.9	83.3	81.6	78.8	
ナ	6)「ながら食べ」をしない(テレビ・漫画・ゲーム等を見ながら食事をしない)	42.2	45.2	47.8	44.3	
-	7)「ばっかり食べ」をしない(一品ずつ食べきってから、次のおかずに移ること)	49.3	45.2	47.1	45.5	
	8) よくかんで食べる	64.5	65.1	66.2	63.5	
	9)一人で食事をさせない	81.5	83.0	81.9	81.0	
食	10)おやつの時間や分量を決める	57.5	61.3	60.5	58.7	
生	11)必ず朝食を食べる	93.2	93.8	94.2	92.1	
活	12)嫌いなものも食べてみる	71.2	72.2	73.3	69.0	
IJ	13)決められた時間内で食べる	32.5	28.5	32.9	28.4	
ズ	14) 早寝早起きをする	73.3	77.8	78.2	73.3	
ム	15)排便時に便の様子を確認する	63.7	67.0	64.5	63.0	
	16)食材の名前を覚える	64.4	68.2	65.9	65.2	
	17)地域の食材や特産品を知る	18.8	13.1	14.9	15.2	
	18)季節の行事食や郷土料理を知る	33.7	28.3	32.1	27.8	
食文	19)食材のなっている姿や収穫(収獲)のようすを知る	40.7	38.6	45.4	36.5	
化化	20)野菜や果物の旬を知る	42.1	40.6	42.6	38.7	
16	21)野菜や果物を育てる	45.9	41.9	48.0	41.0	
	22)添加物の少ない食品を選ぶ	48.6	50.2	51.4	48.9	
	23)食べ物を粗末にしない、食べ物で遊ばない	88.7	89.0	90.5	86.6	
	24)料理の手伝いをする	60.6	55.8	61.7	54.3	
	25)包丁が使える	35.3	26.5	35.8	27.1	
l _	26) 電子レンジが使える	33.0	28.8	33.1	28.1	
子	27)ガスコンロが使える	22.7	17.4	20.8	17.7	
供の	28)米を炊飯器で炊く(お米を研(と)ぐ、水加減をする、等含む)	30.7	26.6	28.6	26.2	
の調	29)調味料の名前や味ががわかる	44.4	40.8	44.8	40.1	
神	30)「子供の料理教室(有料・無料問わず)」に参加したことがある	13.4	11.1	18.6	10.8	
#	31)食事の準備(食器を並べたり机を拭いたり)をする	70.1	67.2	78.0	63.6	
	32)食べ終わった食器を片付ける	68.8	66.8	71.8	64.7	
	33) おつかいをする	25.4	17.9	24.0	20.1	

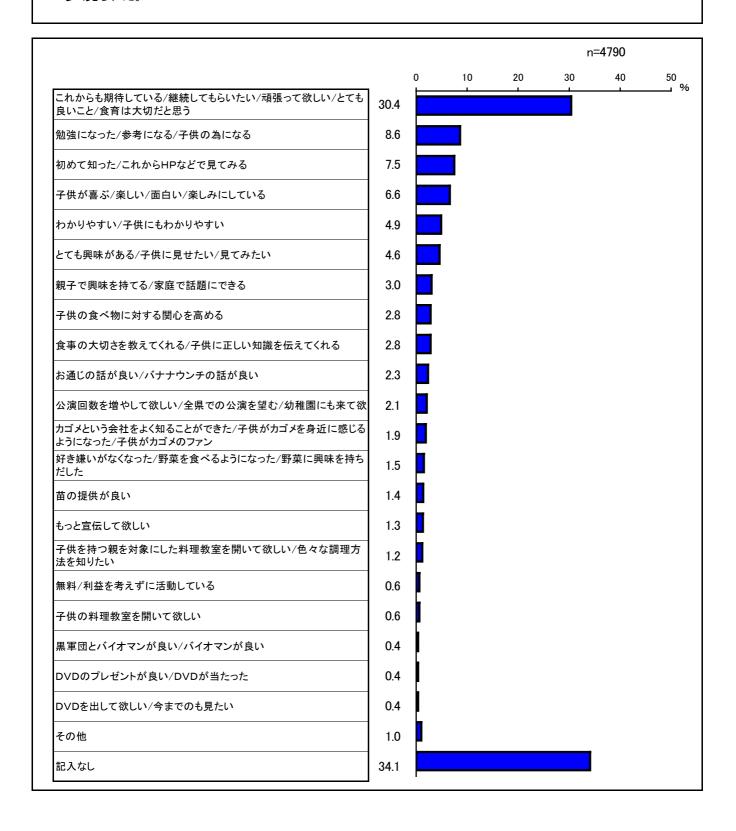
6. 子供の食生活で困っていること

- ・圧倒的に多いのが、偏食であり、特に野菜ぎらいが目立つ。次いで、魚介類、肉、果物、牛乳と続く。
- ・2番目に多い食事所要時間は、「おやつの食べ過ぎで」「食が細くて」「おしゃべりしていて」等の理由が多い。
- 「少食」の件数が「食べすぎ」よりも多く、また、子どもの食欲がないことを危惧するコメントも目立つ。
- ・「食が細くて困っているが、おやつは食べる」「おやつを食べ過ぎて食事を食べない」という意見が多く見られ、 おやつが通常の食事に大きく影響していることが伺える。また「おやつと食事のバランスがわからない」といった 乳児期から幼児期の食事への移行期間の悩みも多い。
- ·「朝食に時間がかかる」「朝食は量を食べない」等、特に朝食への悩みも目立った。
- ・朝食欠食児童予備軍であることや、子どもたちの食への興味・関心が薄らいでいること、などが危惧される。



7. 「カゴメの食育支援活動」に関する感想・意見

・全体の3分の1の方は無記入であったが、記入された方の大半はプラスに評価しており、継続・期待の声が 多く見られた。



【質問項目】

- 問1 今回ご応募いただいた「カゴメ劇場2005」DVDを見せようと思われるお子様は何歳ですか。
- 問2 お子様は、「カゴメ劇場2005」を昨年劇場でもご覧になりましたか。
- 問3 お子様の性別をお知らせください。
- 問4 お子様は、第何子ですか。
- 問5 お子様との続柄をお答えください。
- 問6 あなたの年齢をお知らせください。
- 問7 あなたの職業の有無をお知らせ下さい。
- 問8 家族構成をお知らせください。
- 問9 お子様に対する教育として、下記の1)~33)について、「1. 家庭で現在やっている」、「2. 家庭では現在やっていないが、今後やらせたい」「3. 今後も家庭ではやらないが、学校や園でやって欲しい(又は既にやっている)」「4. いずれもあてはまらない」、から最もあてはまると思うものをひとつお選びください。
 - 1)正しく箸が持てる
 - 2)「いただきます」「ごちそうさま」を必ず言う
 - 3) 好き嫌いをしない
 - 4) バランスのよい食事がわかる
 - 5) 食事の時はジュースを飲まない。(お茶、牛乳、野菜ジュースは除く)
 - 6)「ながら食べ」をしない(テレビ・漫画・ゲーム等を見ながら食事をしない)
 - 7)「ばっかり食べ」をしない(一品ずつ食べきってから、次のおかずに移ること)
 - 8)よくかんで食べる
 - 9)一人で食事をさせない
 - 10)おやつの時間や分量を決める
 - 11)必ず朝食を食べる
 - 12)嫌いなものも食べてみる
 - 13)決められた時間内で食べる
 - 14)早寝早起きをする
 - 15)排便時に便の様子を確認する
 - 16)食材の名前を覚える
 - 17)地域の食材の特産品を知る
 - 18)季節の行事食や郷土料理を知る
 - 19)食材のなっている姿や収穫のようすを知る
 - 20)野菜や果物の旬を知る
 - 21)野菜や果物を育てる
 - 22)添加物の少ない食品を選ぶ
 - 23)食べ物を粗末にしない、食べ物で遊ばない
 - 24)料理の手伝いをする
 - 25)包丁が使える
 - 26) 電子レンジが使える
 - 27)ガスコンロが使える
 - 28) 米を炊飯器で炊く(お米を研(と)ぐ、水加減をする、等含む)
 - 29)調味料の名前や味ががわかる
 - 30)「子供の料理教室(有料・無料問わず)」に参加したことがある
 - 31)食事の準備(食器を並べたり机を拭いたり)をする
 - 32)食べ終わった食器を片付ける
 - 33)おつかいをする
- 問10 「お子様の食生活上で困っていること」をご記入ください。(具体的に)
- 問11 「カゴメの食育支援活動」についてご意見・ご感想をご記入ください。(具体的に)